

文化を生み出した感動に立ち会う

■ 伝統と文化

文化遺産や作者の名まえだけに止まらず、文化を生み出した人びとの願いや社会の状況、文化を継承していった人びとの営みなどを描き出しました。



①光源氏(左下)が17歳のとき出会った空蝉(右上)の家を訪ねる場面(10世紀の絵)
②光源氏(左下)が空蝉(右上)の家を訪ねる場面(10世紀の絵)

(7) 女性作家の登場 — 平安時代の文化 —

紫式部と清少納言はどんなことを書いたのか。このころの文化にはどんな特色があるのだろうか。

衣字以安
れ者字以安
おえういあ
於江字伊阿
オエウイア

③漢字からひらがな・カタカナへ、ひらがなは漢字をくずしたもので、カタカナは漢字の一部をとりて漢字にしたもの。



④清少納言(17世紀の絵)「星加賀子につかえ、漢文の教養をしめた。」
漢文の教養をしたもの。

050

■ 光源氏の恋と愛

光源氏は、紫式部が11世紀のはじめころに書いた小説『源氏物語』の主人公です。天皇の子として生まれ、学問や和歌ばかりでなく、舞や笛にも才能を発揮する、すぐれた青年に成長します。光源氏は、父である天皇の新しい妻となった藤原の御孫を慕う気持ちをつのらせますが、さらに多くの女性たちと出会います。

紫式部は、このような光源氏の心情や、きびしい運命と向きあう女性たちの姿を書き分けていきます。また、天皇家と藤原氏が結婚を通して複雑に結びつれた宮廷のありさまを、見事に描き出しています。

8世紀にまとめられた『万葉集』では、日本語の音を、漢字を使って書きあらわしました(万葉かな)。9世紀には、ひらがな・カタカナがつくり出されました。10世紀の『古今和歌集』は、ひらがなで書かれています。カタカナは、漢字の一部をとって簡単にしたものです。12世紀に書かれた『今昔物語集』は、漢字にカタカナをまじえて、伝説や興味深い伝えています。平安時代の和歌や『源氏物語』のような女性作家が書いた文学は、ひらがなを使って書かれ、文字文化を定めました。

■ 「うつくしきもの」



(12) 禅の文化、民衆の文化 — 室町時代の文化 —

盆おどりに人びとはどんな思いを込めたのだろう。どんな民衆の文化、禅宗の文化が生まれたのか。

■ 盆おどりの誕生

1420年は、春から日照りにつき、よく年にかけて大きくなりなりました。伝染病が大流行し、多数の人たちが食べ物や水を求めて、京都におしよります。しばらく前から気候不順やきんはありましたが、このあとも伝染病には、きんがたびたびおそいました。このとき、伏見庄(京都府)でも多くの犠牲者が出ました。村人たちは、亡くなった人びとを供養し、百万遍念仏がおこなわれましたが、しばらくたつと、盆には、死者を供養する盆おどりが踊られるようになりました。きびしいことの多かったこの時代、伏見庄のような祭りや盆おどりが、各地に広がり、人びとは、死者をいたわだけでなく、新たな人と人の縁を求めて、歌をひびかせました。

■ 文化の中心となった禅宗寺院

室町時代には、鎌倉時代におこなった浄土真宗(一向宗)や法華宗(日蓮宗)などの新しい仏教が、信者を大きくふやしました。しかし、幕府は禅宗を重視したため、国の中心では禅宗が栄えました。とくに京都や鎌倉の五山といわれる寺院は幕府の保護を受け、禅宗の僧侶は漢文の知識をいかして、外交文書を作成するなど、学術や文化の中心となりました。金閣・銀閣にも禅宗寺院の建築様式がとり入れられ、武家の文化に、公家の文化をとりこませたものになっています。禅宗の部屋の様式を、武家の住居にとり入れた書院造りも生まれました。禅宗のまわりには、水



⑤物語を読む女性(12世紀の絵)

つくしきもの」心ときめくもの」などをあげながら、日常生活や世の中の様子を、ひらがな(一部漢字)で自由に描いています。清少納言は『枕草子』で、「ありがたいもの(めったにないこと)として、「妻の父にほめられる婿」をあげています。男性は結婚すると妻の家に入り、その両親と同居しました。子どもが生まれると夫婦が自分の家をもつことが多くなります。妻が夫の両親と同居することはありませんでした。奈良時代ごろの夫婦は、どちらか(多くは夫)が相手の家に通うという形で、結婚生活をつづけました。子どもは、妻の家で育てられました。

■ 国風文化が生まれる

この時代、平安京の宮廷文化は、東アジアの大きな影響がつづいていました。それとあわせて、日本の独自の文化が重視されるようになりました。このような平安時代の文化を国風文化とよびます。服装や観音堂の建物や庭園、さらには絵画や彫刻なども日本風に洗練され、風土や生活にあった文化が生まれました。また、奈良時代の『古事記』のような書物が国風文化を伝えることになりましたが、平安時代の物語には、地方との交流が反映されるようになります。

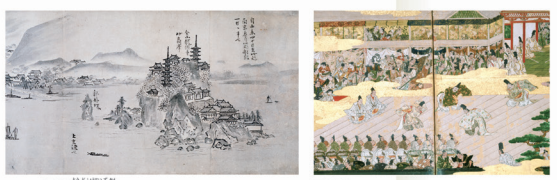
— これが極楽浄土 — 平等院鳳凰堂 —

この時代、11世紀には仏教の教えが力を受け、世の中が浄土という考え(浄土思想)が、人びとに信じられていました。また、極楽浄土に生まれ変わるために、南無阿弥陀仏を唱える(浄土念仏)が盛んになりました。極楽浄土は、11世紀中ごろ、この地に極楽浄土を再現したいという願いから、宇治(京都府)に平等院鳳凰堂を建てた。池の中島に建てられているため、極楽にあるとされる。花がさかすかに池に浮かぶ雲のように見えるといわれた。地方にも、同じような浄土思想が広げられるようになっている。浄土の教えは、

「うつくしきもの」(一)「うつくしきもの」(二)「うつくしきもの」(三)「うつくしきもの」(四)「うつくしきもの」(五)「うつくしきもの」(六)「うつくしきもの」(七)「うつくしきもの」(八)「うつくしきもの」(九)「うつくしきもの」(十)

女性作家たちが生み出した文学の世界から、平安時代に生きた人びとの姿を実感します。

「うつくしきもの」(一)「うつくしきもの」(二)「うつくしきもの」(三)「うつくしきもの」(四)「うつくしきもの」(五)「うつくしきもの」(六)「うつくしきもの」(七)「うつくしきもの」(八)「うつくしきもの」(九)「うつくしきもの」(十)



⑥雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑦雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑧雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑨雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑩雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑪雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑫雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑬雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑭雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑮雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑯雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑰雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑱雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑲雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

⑳雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉑雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉒雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉓雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉔雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉕雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉖雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉗雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉘雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉙雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉚雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉛雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉜雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉝雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉞雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㉟雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㊱雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㊲雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㊳雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㊴雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㊵雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㊶雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㊷雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㊸雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㊹雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

㊺雪舟(13世紀の絵)「雪舟の舟」(京都府)

飢饉の犠牲者を悼む盆おどりが誕生しました。村の成長が生んだ文化は今につながります。

「ものぐさ太郎」の笑い世界
室町時代には、「御伽草子」という絵入りの物語の本が多くの人に読まれました。その一つ「ものぐさ太郎」の主人公は、もちが軒で働くに似ていないような、なまけ者でした。ところが、餅に上ると、よく働くまめめいり男に変身します。將軍や寺僧などの家には、お伽草子という文化がありました。また、「一寸法師」や「餅かつき」の主人公も、召しつかせられ、笑いのものにされる文化でした。能とともに演じられた狂言も笑い話、とんち高です。これらが、現在まで伝えられる民謡の原型となりました。また、連歌やよみ会が、公家や武家の間だけでなく、地方でも広くおこなわれました。室町時代の文化のなかで、民衆に文芸や知識が広がるようすを、はじめて知ることができます。



⑫銀閣寺(1482年築)

⑬銀閣寺(1482年築)

⑭銀閣寺(1482年築)

⑮銀閣寺(1482年築)

⑯銀閣寺(1482年築)

⑰銀閣寺(1482年築)

⑱銀閣寺(1482年築)

㉑銀閣寺(1482年築)

㉒銀閣寺(1482年築)